会　議　録

会　議　名	市長とまちなかミーティング
開催日時	令和元年８月 28 日（水）18 時 30 分～20 時 10 分
開催場所	えい中央温泉センター　研修室
出　席　者	市長，副市長，総務課長，企画課長，企画課企画係長，総務課行政係長及び係員，頴娃高校活性化協議会長外 10 名（計 18 名）
会の概要	１　開会の挨拶 ２　メンバー紹介（双方） ３　頴娃高校の現状と地域への貢献事例 ４　ディスカッション項目 ⑴　当協議会の組織の在り方について ⑵　頴娃中学校スクールバスの頴娃高校生の利用について ⑶　市内の高校への進学推奨に関する市の考え方について ⑷　市外からの市内高校受験促進に関する市の考え方について ⑸　若者のＵターンに関する市の考え方について
議事の要旨	**４　ディスカッション項目** **⑴　当協議会の組織の在り方について** 市内の県立高校３校の活性化協議会が一体となって活動するような事態のときに限り，その会長に市長がなる可能性は十分ある。 **⑵　頴娃中学校スクールバスの頴娃高校生の利用について** 頴娃中学校のスクールバスは，国県から交付される補助金を充てており，当該補助金交付要綱及びこの要綱に基づきバス会社と結んだ契約に反することはできないため，現時点では頴娃高校生が頴娃中学校のスクールバスを利用することはむずかしいと判断している。 **⑶　市内の高校への進学推奨に関する市の考え方について** 市内の中学３年生保護者へのアンケート結果で，進路については子どもの意見を尊重するというのがほとんどであったため，積極的に高校の魅力を中学生とその進路指導等の先生にも周知し，意識を変えることが必要であると考えられる。 **⑷　市外からの市内高校受験促進に関する市の考え方について** 市内の中学３年生へのアンケート結果で，高校を選ぶときの決め手として，卒業後の就職等で有効となる検定試験・資

	格試験を高校で取りたいという意見が多かったため，資格取得に対する支援を行う施策を議会に提案する予定である。 ⑸　**若者のＵターンに関する市の考え方について** 　市としては，毎年２月に，今年度は令和２年２月７日に，３回目となる企業合同説明会を，薩南工業高校の体育館で市内企業と知覧体育館で近隣３市の企業と合計 60 企業近くとの合同説明会を計画している。 　協議会として今年 11 月 19 日に初めて実施する地元企業の説明会は，地元企業をよく知らない生徒達も多くいると思うので，地元は地元での企画が必要と思われる。

会の内容
１　開会の挨拶　　略
２　メンバー紹介　略
３　頴娃高校の現状と地域への貢献事例

教頭）

　1931 年に創設し，来年度創立 90 周年です。

　現在，**「生徒数」**は今年４月現在で 153 名（普通科 46 名・機械電気科 107 名）です。その内訳を「出身地」別でみますと南九州市は 43 名（28.1%），指宿市が 104 名（68%），枕崎市が２名（1.3%），その他県外を含めまして遠方からの生徒が４名となっています。

　「通学状況」は，ＪＲを利用している者が 38 名（24.8%），駅まで単車・自転車を利用し，その後ＪＲを利用している者が 30 名（19.6%），バス利用の者が２名（1.3%），単車で学校まで通学している者が 43 名（28.1%），自転車を使っている者が 23 名（15%），徒歩による者が 13 名（8.5%）です。その他保護者等送迎による者を含めまして４名となっています。

　「就職・進学」については，平成 30 年度は，進学が 28 名で，内訳が大学３名，短大３名，専修学校等 23 名です。就職が 29 名で，内訳が県外 18 名，県内 11 名となっています。

　「地域活動等」については，大学入試の改革に向けて学校としても様々な取組を今後進めていかないといけないと考えております。文科省の唱える高等学校におけるキャリアパスポート，ポートフォリオという活動履歴にあたります。それを構築していく必要があります。その為には文科省の唱えている地方創生に資する高等学校改革，高等学校と市町村と地元企業等が連携し

て地域課題の解決を通じて探究的な学びを提供する仕組みを構築して成果を発表するという発想になります。三重県では，孫の手食堂とか高校生を使って食堂を経営されて，そういった方向性をもっての取組はよいと思います。

頴娃高校が現状で取り組んでいる**「地域のボランティア」**ということで，昨年のボランティア・スピリットアワードという賞の九州ブロック賞を受賞しております。九州内各県から１校ないし２校という形で，鹿児島県からは純心高校と頴娃高校の２校が選ばれました。評価いただいた内容としまして，そよ風ランチ～頴娃高校と学ぼう～ということで生徒が再生した古民家で小中学生に体験授業を行っております。学習支援を実施するという意味で，別府小学校に行こうという催し，取り組みをしています。ＪＡの協力で花いっぱい運動ということで，頴娃高校の生徒と色々な所においていく活動をしている，そういった活動が評価されて受賞しました。

地元の頴娃おこそ会との行動内容としては，古民家再生。頴娃高校は，工業科の機械電気科がございまして，機械コースの子たちも，電気コースの子たちも電気工事士，第二種電気工事士という国家資格を受験して取得します。この資格を持っていると，家庭につないでいる 100Ｖのコンセント工事を実際に行うことができます。その資格を持った者たちが屋内配線工事ということで，古民家再生の作業に取り組んでいます。現在は，再生に係る古民家の数が少なくなり，頴娃おこそ会の事務所で使われている家屋の改築に携わっております。

今年度は，西頴娃駅。ＪＲ等の許可等が必要になってきますけど，西頴娃駅を生徒と一緒に地域の活性化を図れないかということで，生徒たちを使って練りこんでいこうと考えております。生徒たちの感想を聞けば，実習では色々な作業を行うので，実社会で実際使われている器具を，照明器具をつけたりすることで受け取る気持ちが違う。自分の付けた物が原因で，例えば火災が発生したり，漏電が発生したり，ショートが発生したりすると大変なことになりますので，非常に真剣に慎重に生徒達が作業を進めています。

頴娃おこそ会とは，ばんどころ絶景祭に毎年参加させてもらっています。そのなかで頴娃高校として出店しまして，生徒たちが作ったもの，課題研究等で作ったものを出しまして，来場者にそれを説明するなどで従事しています。今年は雨の為に中止という事でできなかったのですけれど。

あとは，それこそ宮脇マルシェということで，昨年から新しい取り組みを，地域おこし協力隊の方々を中心に取り組まれた宮脇マルシェもボランティアということで参加させていただいております。非常にいい取組をしてい

ただいて，生徒たちにボランティアの前にレクチャーしていただき，その後振り返りをしていただいております。

あと近隣のこおり de マーケットでの募金活動，えいのごっそい祭りでも募金ボランティアで参加しております。あと地域では，三俣の通り会の方々の支援・後援を受けて頴娃高校の正門の近辺で，クリスマスのイルミネーションということで毎年展開しております。これは本校の機械電気科の先生たちと生徒たちが一緒になってやっています。

地域活動に関しましては，以上のような状況でございます。

頴娃高校のＰＲでございますが，**「機械電気科」**という学科でございます。機械と電気を合わせた学科で，県内でも数が多くないです。先ほど言いました人数が多くない状況でして，最高で 40 名。その中で機械と電気が上手に分かれて学習を進めてまいっております。

「資格取得」に関しましては，機械電気科の中で県下の中でもおそらくナンバー１に近い状況だと私は感じております。特に，機械コースの子たちが電気工事士を取る，電気の子たちも同様に，その中からより上位の資格・第１種電気工事士に昨年度８名合格者が出ています。８名合格というのは，県内では川内商工と鹿児島工業が２校合わせて８名合格でしたので。

あとは陸上無線技術士という資格があり，国家資格の中でも難関資格であります。大卒程度とされる内容で，大学生が受験したり，水産高校の専攻科が受験をしたりする資格になります。それを昨年度４名，今年度も４名合格者が出ており，そのうち２名が２年生です。３年生は，昨年度分と合わせましてそれをとった者たちが自分の進路実現ということで九州管区の警察局を３名受験しました。まだ内々定の状況でございますけど，３名ともおそらく大丈夫じゃないかということで返事をいただいているところです。航空局の方を１名受験。１名はこの資格を使って大学進学を考えていたのですけれど，大学進学から就職に切り替えています。非常に有効な資格で，頴娃高校ではそれを指導する体制が整っております。生徒たちが頑張ってくれている学校のひとつではないだろうかと思います。

副市長）

１点確認ですが，頴娃高校ではバイク通学は許可されているのでしょうか。

教頭）

バイク通学する者に限り，バイクの免許を取得し，通学に使うという条件で許可をとっています。

４　ディスカッション項目
①　当協議会の組織の在り方について

頴娃高校活性化協議会）

４，５年前だったと思うのですが，頴娃高校の３クラスが２クラスになるということで，そのとき私は当時同窓会長でしたので，同窓会はじめ７，８名で県に出向いて陳情にいきました。その際，１回目は県教委に申し入れをしてお伺いしましたが，全くこのような場を作ってくれる訳でもなく，教育委員会のその辺の廊下で立ち話ということで門前払いされました。これではいかんということで，２，３日後には県議ＯＢを介して申し入れをしたら，県教委がちゃんと会議室を準備され協議ができました。やはり，県は我々個々人が同窓会長であろうと行っても話を聞いてくれないのだなと思った。

そのときに山川高校の問題もあって，山川高校は廃校にするというような意見も出ていたのですが，ふたを開けたら山川高校は残っていた。いろいろ話を聞くと山川高校の活性化協議会の会長は指宿市長だった。市長が旗をふってやったものだから県も手をつけなかったのだなと，これは我々同窓会がどうこう言うよりも，市長が先頭でやってくれないと県も耳を貸してくれないのだろうとつくづく思うところでした。

このことは既に７～８年前に，私たちは川辺高校・薩南高校と色々な形で何回もミーティングをしている。その時にとにかく３校とも，活性化協議会長だけは市長になっていただきたいと考えました。我々は各学校の支部長という形で組織をつくらないと，県に陳情も申し入れもできないという様な組織になってしまうのではないかということで決議したことがありました。ぜひ協議会長だけは市長が先頭に立って担っていただき，活動は３支部がやるということができないものかなと思っておりますが，どうでしょうか。

市長）

会長をお願いされたのは初めてです。市役所には制約がありますから，そういうものがなければ，私自身は引き受けても良いと思っています。ですが，今言われたばかりなので精査をして，調べて，会の中身を私もよく知ってから検討したいと思います。

企画課長）

南九州市では，頴娃高校・薩南工業高校・川辺高校それぞれで活性化協議会が合併前から存在しており，この事務については合併協議の中でも継続していきましょうということで継承された経緯があります。

先ほど，市長を会長にと私どもも初めてお聞きしたところです。これまでも協議会の活動というのが，それぞれの学校でも違うし，我々の情報では協議会長が集まって協議したということも聞いてなかったので。

今年度から，会長，学校長それぞれ２名ずつ各学校加わっていただき，我々が事務局として，同じように共通している高校の存続を含めた形で協議会があるのではないかということで，７月５日に１回目を開催しました。どういう形での支援があるのか，それぞれの学校の会長，校長の意見を調達しまして，アンケートを実施して，中学３年生が実際どういう思いがあるのか，またその保護者がどう考えがあるのかということを，生徒用と保護者用に分けてアンケートを実施しようというのが，その回で決まったことでした。

２回目は，アンケート結果が出まして，それについてどういう支援策を一番望んでいるのかというような検証を行った。その結果，入学時の初期経費が必要だという要望とか，資格取得するために高校に入る子どもたちもいるので，資格取得のための経費に充てたらどうかというのがみえてきたところです。市長との協議の中で，９月になれば中学校は進路指導を保護者と先生とされるので，それまでにはアンケート結果を基に来年度以降は具体的な内容の支援を示せるのではないかとアンケートを少し急いだところでございます。そうしたなかで支援策が若干みえてきておりますが，そこにはもちろん予算が伴いますので，現段階で絶対やりますというようなことはここではお伝えできません。

また，現段階では，３協議会をまとめた組織の会長に市長がなるということよりも，我々事務サイドとしての考えは，それぞれの協議会による活動の在り方というものがあってよろしいのではないかと。ただ，各地域の高校が存続かれこれになったときは１枚岩になって再結成してやっていくという方向でいいのではないかと思っております。

今年に入って３協議会の会長と校長先生をお呼びして，話や意見を聴取できたことで，総会等にも出席してはおりますが，それとは違った各々の情報共有ができたという点では少し前向きになったのかなというのが現状です。

副市長）

現実として，３協議会が１協議会に組織化ができるかということもありますが，今の流れでは各協議会で頑張っていただいて，もし市長が必要であるという時には考えて頂いてもいいのかなという気がしないでもないです。３つの協議会が１つになりますよということになれば。

頴娃高校活性化協議会）

私が思うのは，各校は従来通りの活性化をやりながら，県に申し入れするときに市長を会長としての方が強いのではないかと。そういう意味で，市長になっていただきたいと思ったところでした。

市長）

それは検討ということで。

頴娃高校活性化協議会）

各学校の協議会長は支部長という形にして，その上に会長が１人いるのだよという形の方が。

市長）

３協議会が一体となったときの形ですね。

副市長）

仮に南九州市高校活性化協議会なるものをつくったとき，市長に会長としてなっていただくということですよね。その下に各校の支部があるという。

市長）

何も制約がなかったら会長になっても構わない。そういう一体となった形になれば良いことだと，力添えになるということで。前々から県とは何をやればいいのか分からない状態で，それは声が私のところに全然届いていなかったから。教育委員会も県立高校のことに関してはタッチしない，しようとしない。ただ心はみんな同じで，学校を維持するために生徒を増やさないといけない。先ず，それが大事だということ。

企画課長）

他市の状況とか少し調査をさせていただけたらと思います。他市においても高校の分野になりますと市教育委員会も義務教育でもないから取りつく島も無いということで，企画課で引き受けてやっているところです。

これまで，県で，市長の会というのが，県立高校を守る会みたいな会があり，県の高校再編関係のときにはその会から申し入れをしようとした経緯が歴史的に残っております。それがこの度，県教委が「高校再編について決めるときには地域と十分協議をしていく」という方向だけを決めていただいたということもあって，その会が今年解散をしたところでした。解散しなくても県教委としては「各学校の申し入れがあったときには，県が基準を示してどうこう言うのではなくて，その地域とは話し合い活動をしますよ」という決めをしたこともあって，解散に至ったという経緯があった。これまでのように，一方的に入学者の充足率の関係等で決めていくことはないということ

だけは計画の中にうたわれていますので，間違いなく，各校の地域とも話をしていただけるものと思っております。

県の流れとして，首長が会長の協議会がどういう形で動いているのか，今朝この議題を聞いたばかりでまだ十分調査もできていないので，その調査もさせていただきたいと思います。

②　頴娃中学校スクールバスへの頴娃高校生の利用について

頴娃高校活性化協議会）

頴娃中学校が今年度４月からスクールバスで学校に通学しています。頴娃高校でもＪＲとか鹿児島交通バスを利用して通学している生徒がいます。スクールバスが頴娃高校のそばを通りますので，頴娃高校に通学する手段として利用できたらと思います。もちろん頴娃中学校の承諾を得て色々な段階を踏まえ利用を検討していただきながら。これを機に，我々としては一人でも多くの生徒を呼び込むことができたらと，考えが浮かんだ訳で，ご協力いただけたらと考えますが，いかがでしょうか。

総務課長）

中学校のスクールバスの利用については，教育委員会の教育総務課が所管しておりますので，担当課に照会したところ，なかなか難しいということでした。なぜかと言いますと，１つに，スクールバスは契約をしており，頴娃中学校に通う生徒が利用するとした仕様であるため契約上問題があるということです。

もう１つに，補助金の関係で，スクールバスの運行に関しては国県から補助金をもらっており，その補助金交付要綱には「中学生が利用すること」になっているため，そこを高校生が利用するということは，補助金交付要綱に反することになるのではないかと思われます。

もう１つは，バスの乗車人員の関係で，小型・中型・大型とそれぞれ人員制限があり，各地域から通っている生徒数を基準にバスの大きさを決めています。補助椅子を使えば着座は可能かもしれないですが，座席には高校生が乗るということは難しい。

現時点では，高校生が利用するということは難しいという回答でした。

副市長）

やはり一番大きいのは国県の補助金をもらっていて，その補助金の交付要綱に反するということ。もし，事故等があって高校生が利用していたとなったら，かなり大きな問題になってしまいます。国県の補助金については，当面５年間と聞いております。

企画課長）

補足ですが，知覧中学校も川辺中学校も同じような形でスクールバスを活用しており，それぞれの地域にも高校があります。同じことをするなら３地域とも同じ利用をしなければならないというのが大きな課題にもなるのかなということと，例えばひまわりバスなど市公共交通は立ち席もありだが，通学バス等については着座の固定席でベルト着用ができるシートが必要ということもあって，若干しかシートに余裕がないということになっている。

市長）

頴娃中学校のスクールバスだけで７千万円近く。補助金をもらわなければとてもやっていけない。アンケートをとって市がどういう援助ができるかということで，３校とも通学補助をやろうというようなものも私は思っていたのですが，今申し上げたような財政事情があり非常に高額になります。そういうこともあって，通学補助をするとしたら無理かなと感じます。

進行役）

今，ここに高校生が有料というのは有料でもいいから，アクセス機関を増やして一人でも多く頴娃高校に来て欲しいという想いからございました。よろしくお願い致します。

③　市内の高校への進学推奨に関する市の考え方について

頴娃高校活性化協議会）

資料からもご存知のとおり，頴娃高校は半分以下という状況なのですけれども，川辺高校と薩南工業高校は半分以上の数値が出ています。我々活性化委員が５～６年前に３校で会ったときに，なんとか中学校に頴娃高校のＰＲを聞き入れてもらえるかなという我々も藁にしがみつく感じで，指宿，枕崎方面は全部，一応活性化委員で中学校を回っているのですけど，そのことが身につながったかといったらそこは難しいところで...。そこで，地元の頴娃中学校からは資料に示したような状況なのですよね。できれば市として，なんとか協力してもらいたいというのが我々の気持ちなのです。霧島市は，市をあげての活動をやっていると伺った。

南九州市として，我々頴娃高校の，資料の中で全体的に少ないパーセントが出ていますが，どう思っているのか伺いたいところです。

進行役）

今で頴娃中３年生 104 名の進学の希望状況ということで，先般発表されたのは頴娃高校が 10 名，薩南工業高校が８名，川辺高校が４名の合計 22 名でした。要は，地元が合併したのにもかかわらず，全体の２割しか地元の学校を希望していない状況なのです。４割，５割位のせめて希望者を，地元の高

校３校あるのですから。その辺を含めてなんとか引きとめて，市の方からいいアドバイスというか考え方をお伺いしたいという想いも入っていますので，よろしくお願い致します。

頴娃高校活性化協議会）

その中で３年前でしたか，ある保護者から中学校の指導の先生方がどうしてもこの学校を勧めるのですよねと言う。例えば，私立とか市外の学校そっちの方を勧めるのですよねと言われたものですから。そういうところから先生と話して，何とか地域の高校のことを分かってもらえないでしょうかと思いまして。

企画課長）

これまでもそうだったと思いますが，地元高校への進学を望むのはあるのでしょうけれども，今回のアンケート調査をとってみて分かったのは，市外の高校に進学したいという方は 104 名のうち６割，市内は４割しかいなかった。保護者の考え方としては「子どもの意見を尊重する」というのがほとんどでございました。ですから，協議会を中心に，学校の魅力を子どもたちにどんどん伝えていかないことには改善されない。子どもたちにちゃんと理解してもらうためには，活性化協議会も含めて学校の魅力を中学生に周知していかないことにはパーセントも上がらないのではないかと，アンケート結果を見て感じるところです。市が市内の高校に行きなさいというのではなく，支援のなかでこういうのはありますよということを出せても，子どもの意思を変えるというのは不可能ではないかなと感じております。

副市長）

アンケート結果は示してあるのか

企画課長）

アンケート結果はまだ示していない。先生方には示しました。

頴娃高校活性化協議会）

数年前から，頴娃高校に来なかった人になぜここを選ばなかったのかというのは，ずっと私たちは知りたかったが調べる方法がなかったが，聞く機会があって，聞くと，単車免許を地元だから取らせてくれないからとか，制服が気にくわなかったとか，そういう意見は聞きました。企画課がアンケートをとってくれましたので，それを基に学校は変わらないといけないなというのを今みんなで話合いをしているところです。

進行役）

私もアンケートを見させていただきましたけど，なかなかパレット図を描けない。パレット図を描けて，意見が多い所をどうにかつぶしていけば，なんとかなるという気持ちがあるが，数が１とか２とか多種多様にある。

副市長）

色々な子どもたちの意見が出ているから，それに全てに応えるというのは至難の業ですよね。

市長）

企画課長が言ったとおりだと思うのですよね。教育委員会も地元の学校に行ってくださいというのは強めに言えない訳です。頴娃高校は専門の学科があるということ，機械電気科があるのは魅力的で，これは特徴です。魅力ある科を，例えば福祉の専門科を設けるとか私も考えていたのですが，我々が言えるようことではなく，科を設けることはむずかしい。しかし，特徴を出さないといけない。水産高校は国家資格が取れるから希望者が多いと聞く。地方の学校でもそういう学校はある。資格はどんどん取るように魅力のある学科を設けて，バスで送迎をして生徒を集めている。ところが公立は出来ない。しかし，できる方法を考えていかなければいけないなと。我々にできることはどういうことかと考えれば，中学校にまずは情報を提供するとか，私はそう思います。まずは生徒を集めなければならない。

副市長）

頴娃高校では体験入学をされていらっしゃいますか。参加は多いですか。

教頭）

去年は 95 名，今年１回目が 39 名，もう１回実施してそれが 17 名です。

副市長）

個人的には，その取組は大事なことじゃないのかなと思います。

進行役）

授業以外に，この前は部活の体験入学をやっていました。見ていたら頴娃中の野球部が頴娃高校の野球部と一緒に体験練習をやっていて，だいぶ人数も多くあれだけ人数も揃うと元気が出てチームも強くなるし，チームも元気が出るのではないかと感じました。

④　市外から市内の高校受験促進に関する市の考え方について

頴娃高校活性化協議会員）

先程から出ているとおり非常に地元の生徒が少ない。頴娃高校は極端な話，市外からの生徒でもっている様な感じがあるので，市外からの人たちに

対しての通学費や受験費用の助成とか，そういう考えは市ができないものでしょうか。助成を検討できるかできないか，その方向性を聴きたい。

副市長）

相対的にこの前のアンケートの結果で，保護者の方々がどの様な学校がいいのかなど，先ほど企画課長からありましたようにその件に関して打ち合わせをしています。市内・市外関係なく子どもたちを集めるためには助成もしないといけないのではないかなと思います。

企画課長）

どういう助成の要望をしているのか，各種検定試験等の助成，修学旅行費用の助成，新入生の制服購入の助成，教科書等の購入助成，通学費の助成，公立大学入学金の助成など項目を設けてアンケートをとったところ，一番多かったのは，新入生の「入学時の制服購入の助成」が 30%，「教科書等の購入助成」が 21%，「各種検定試験の助成」が 16%，「修学旅行費の助成」「通学費助成」「大学入学の助成」は，それぞれ 10%台でした。

子どもたちへのアンケートの中で，高校を選ぶときに何が一番決め手になるのかという問いだと，卒業後の就職とかで「学校で検定試験・資格試験をとりたい」という子どもの意見が多かったことがアンケート結果からもみえました。通学を他市から呼び込むのであれば，南九州市ばかりでなく鹿児島市からの通学助成も考えられたところですけれども，それらを試算して考えたときに，先程のバスの運行費ではないですけど額がすごく上がった。各校の校長，教頭に学校指定の資格試験というのはどういうのがあるのか問い合わせたところ，３校に共通していたのは，今後受験等に必ず必須になる英語の資格取得というのが一番多かったようでございました。

それらを市長が最終的な決定を行う形で庁議を行いまして，そのなかで助成金額等を考慮したときに，「資格取得のための支援」を南九州市としてはやるべきではないかということで，約１千万円近い金額なのですけども，そこを考えてみようかと決定したところでした。

この助成金額は，他の予算を削らなければならない出せない状況ですので，市長の英断といいますか，市長も子どもたちの入学について思い入れも強いところです。

市長）

その件に関しまして，さっき話しました通学補助を全校生徒にやりますと２千万円位かかるということで，それはどうかなぁと思う。ただ，アンケートの結果，資格試験の補助をと考えておりますが，それが市外からの生徒を呼びたい手段にあっているのかなぁと私は思いますので，どうしても協議会

でそれじゃいかん，この方法がいいのだというようなことがあれば教えていただき検討してみたいと思います。今のところは，まだハッキリ決まった訳ではないですけど，議会がダメだと言えば，市民の皆様がダメだと言えば，そういう意見を言って新年度に間に合うようにやっていきたいと思います。

市外から生徒をというのは，私も検討はしたのです。薩南高校は寮がある。なんで頴娃高校には寮がないのかというのを県庁に聞いたが，私も分からなかった。やはり地元で運動していけばと思うが，もう遅いのかな。

頴娃高校活性化協議会）

昔は頴娃高校にも寮があった。島からの生徒もいて，我々が学生時代はありました。

頴娃高校活性化協議会）

屋久島あたりからも結構来ていた。地元の民家とか商店とか，今吉荘とかで下宿していたと思う。その当時頴娃高校にいた屋久島の人に 10 年位前に会って話をしたのですが，水成川のヒワタシ商店という所に下宿していたのだと，頴娃高校の電気科に通っていたのだよと聞いた。なぜかというと，私の親父が頴娃高校の電気科を出て屋久島の「ヤクデン」という水力発電所に勤めていた。地元企業よりはるかに給料がよくて，みんな若い人たちはうちの親父に「ヤクデンに入りたいのだけど，どうしたらいいですか？」と聞くので，「頴娃高校の電気科に行きなさい。そうしたら通るのだよ」と答えた。その人は一生懸命勉強して屋久島から頴娃高校に来て，予定通りヤクデンに入れたという話もありまして，もしかしたら屋久島には普通科の屋久島高校しかないですから，ターゲットを離島に絞るのもいいのかなと思います。たぶん，その人たちは屋久島高校以外だと，鹿児島市内の工業高校や実業高校，そういうところが多いと思います。頴娃高校ももしかしたら，そういう所にターゲットを絞って寮をつくったら来やすいと思います。

副市長）

アンケート調査の結果で，どこに手を入れた方がいいのかというのは，我々も非常に悩みがあるところです。現案が公平性も保たれますし，現段階ではこれがベストなのかなと考えております。市内・市外ともにどれだけの効果があるかは分かりませんが，これが１年から３年までの３年間という風になってくればいいのかなということで準備はなされています。

頴娃高校活性化協議会）

これまで学校訪問を，枕崎や鹿児島市内まで行きました。色々な活動をしてきましたが，あまり変化はありませんでした。果たして頴娃町の方々が頴娃高校をどんな想いでみているか。数字から見ても指宿市で成り立っている

ような高校になっています。知覧に行くか，鹿児島市内に行くか，指宿の子どもたちは頴娃から工業系の高校が無くなれば通学が遠くなる。だから68％という数字が出ている。頴娃町の子どもたちは普通科に行くのであったら指宿高校にというのがみえている。某高校が廃校になる前に行ったのですが，校内には色々なものが放り込まれ，町に活性が，学校に声がなかった。それを見たとき，頴娃高校がこうなったらここの通りはどうなるのかとか色々な想いをしました。「頴娃のみなさん。頴娃高校を助けてください」といつも言っている。頴娃高校が活性化すれば頴娃町も活性化するのだから，今まで「頴娃高校を」と思ってなかったでしょうけど，頴娃高校を存続するためには頴娃町の皆さんが一生懸命になっていただくのが一番いいのかなと。

協議会長に市長をというのは，指宿市長が山川高校の為に一生懸命だったとあったから。３校持っている一番強い市長なので３校とも育ててくれるように，市長お願いいたします。

市長）

みんなで頑張らないといけない。みんなが言われるように「地元を」だな。

副市長）

頴娃高校もですけど，ＪＲの存続もやはり頴娃の学校というのは非常に大事だと思う。その辺の絡みも含めて考えていかないといけない。

⑤　若者のＵターンに関する市の考え方

頴娃高校活性化協議会）

若者のＵターンに関する考え方をお聞きしたいのではなくて，市の取組としてお互いに考えていきたいなという想いです。2014 年の地方創生から５年のスパンが終わり，その中で予算を相当つぎこみ，その経済効果としてそれぞれの全国津々浦々にその効果を波及しているのかと思えば感じ取れない。つい２～３日前にあちこちで鹿児島県がどうあるべきか，鹿児島県の市町村がどうあるべきか，どういう風にその中で揉みこめばいいのか，そういった項目を教えてくれないかという話があります。

私はそもそも地方創生という言葉が間違っていると思います。地方創生というのは，国が地方を見た時に人口が減って活力もなくなって地方をなんとか助けなきゃいけないのだという東京から鹿児島を見て，東京から田舎を見ての発想，それが間違っている。それは，これだけ地方の人口を東京が一極集中で吸収していって，確かに地方が疲弊をしましたけれども，20 年後 30 年後というのは確実に地方よりも早いスピードで東京は高齢化し，少子化に

特化していく。「地方創生」と言うな，「日本創生」に名前を変えろと言うのですが，「地方創生」は上から目線だと私は思っております。この様に人口が減っていくと，地方創生の流れのなかで鹿児島県を含めて鹿児島県の教育委員会は高等学校の再編というのは当然の流れなので，その流れの中で我々地方の高等学校があえいでいる訳です。なんとか地域で地域の学校を盛り上げると，市長さんもそのようにおっしゃっていただきましたので，それが非常に重要だということで私たちも協議会で一緒になるよりは公民館長さんにもお願いして情報の発信をしていくところですが，効果がないと。非常に残念なのですが。

その根底にあるのは，私は２つくらいかなと思うのです。市立高等学校の先生方は，市から給与をもらっている。ところが小中学校の先生は，国と県が給与を負担しているため，市から給与をもらっていないという潜在的な意識があり，あんまりこのまちのためにと一生懸命になれないマイナスの効果が気になるのですね。

私は出水商業高校に勤務していましたけども，当時の出水市長は渋谷市長さん，非常に熱い立派な市長さんで機会がある度に学校に寄ってロングホームルームで話をさせてくれとか，ＰＴＡがある時には話しをさせてくれとか，そういう様な熱い人です。そうするとその職員も「私たちは出水市から給与をもらっているから出水市の為になんとか頑張らないといけない」という意識がある。南九州市，他の市町村は，そういう市立を持っていませんので，どうしても市と小中学校の関係がしっくりいかないのは人間の真意の中にあると思う。だけど，私は南九州市の学校に勤務されている先生方は基本的には南九州市の職員だと思います。監督権では南九州市の教育委員会にあるわけなので，南九州市の職員であるわけで，南九州市の発展の為に公務員として，正論を言うと全身全霊を尽くして頑張っていただくべきです。小中学校の先生方には悪いですけれども，腰かけて任期まであと２年，出来るだけ鹿児島市内の高校に生徒を送れば俺の価値もあがるかなというので，地方の中学校からごっそり市内の県立の学校に生徒をと，そういうのを感じて仕方がない。是非市におかれては教育委員会を通してでもそういう認識を少しでも持っていただけるならば，南九州市も含め鹿児島市，或いは全国の市町村の活性化のベースが少し上がるのではないかなと思います。

例えば，私たちも中学校に行って「中学校の生徒の皆さん来て下さい」ということで活性化協議会として，中学校の先生達の研修の中でも，高校が何をしているのかと高校からの情報を待つのではなく，高校にぜひ研修の形で来ていただくことも必要なのかなと思っているところです。

中学校の校長先生にもそういうお願いはしているのですが，「なんで頴娃高校ばかり行かなければ行けないのか」とか，１つの学校だけでは回答がないのですけれども，このことがひとつに一番気にしている。

それから次の点は，ディスカッション項目 No. ３に頴娃中学校３年生５人に１人しか地元の高校に進学しないということは，これは市としても非常に忌々しきこととして受け止めていくべきではないかと，お願いをもって話しをさせて頂くところです。ある教育学者がとったデータでは，他の高校，大学を卒業した人は地元に帰ってくる割合が非常に少なくなっている傾向があるというデータがある。80％が市外へ出ているとすれば，その抜けた 80％について割合が低くなるとすれば，私たちの南九州市にこれからの若い優秀な人材も非常に少なくなってくるのではないか，そういう面からも是非市内３つの高校に中学生が残るような施策をなんとかしたい。教育委員会はそういう子どもの進路まで口出しはできない。進路は子どもの選択の自由ですが，なんとか進路指導等の中学校の先生の意識が変わるよう，私たちも高校のＰＲをしていくつもりであります。こういう他の学校に行った子どもたちが地域に戻る割合が減る傾向にあるということは，町としても考えていかなければならない。

今回，非常に最後に感謝を申し上げたいのは，こうしてアンケートまでとっていただき，また各高等学校への財政的な支援までしていただくことは，他の市には，他の町にはない感謝の重みが増している。こうしてみると各３校の協議会と市との連携は非常に重要な関係になってくるでしょうし，この取組が災害時期にも認知されていくことが非常に重要だと思っております。ディスカッション項目 No. １でも瀬川さんが言われたとおり３校はそれぞれ特色がありますので協議会を一本にする事は難しいだろうと思いますが，それぞれの協議会の取組としての行いを，ぜひ市長にも感じていただくことができれば大概的には深い意味付け，関係ではないかとそう思います。

最後に，よその町に行ったとき，よく言われるのは，できればうちの孫は地元の頴娃に帰して，頴娃中学校，あるいは頴娃の町で中学校，高校を卒業させたいのだけどなという声もあります。そういうような小さな声，わずかな声ですけれども，そういうのもうまく聞き入れて活かすことが出来ればＵターン，或いは人口といったものの達成にも効果がある，或いは期待ができると私が思っていることを発言させていただきました。

頴娃高校活性化協議会）

地元企業もどこも人手不足で大変なのですよね。11 月になるのですが，活性化委員と学校側と商工会，ロータリーの方々に協力をもらって，地元企

業の説明会を計画しているところです。ぜひ行政の方も来てもらって，これだけ頑張っているのだという姿を見てもらえたらありがたいと思います。

教頭）

日程は，11 月 19 日です。

頴娃高校活性化協議会）

行政にも案内を送っていいですか。

企画課長）

企業側の合同説明会ですか。

頴娃高校活性化協議会）

地元頴娃の企業の方々に来てもらって説明をしてもらおうかと思って，今年初めてやる企画となっています。

企画課長）

市では，毎年２月，今年度は２月７日に決定し，その日に市内の 20 の企業を位置的中心にある薩南工業高校の体育館で合同企業説明会というのを，今年で３回目になります。

頴娃高校活性化協議会）

我々は地元頴娃の企業でやろうかと思って。

企画課長）

子どもたちにとっては選択肢が広がった方がいいのではないかということで，今年に関しては県の南薩地域振興局もタイアップして，南さつま市，枕崎市，指宿市との４市の企業を知覧体育館に同じ日に呼んで，結局 60 企業以上が集まった説明会を今年度実施するという方向で計画しています。

地元企業をまだ子どもたちが知らない生徒達が多いですので，地元は地元でそういう必要性があるかと思っております。

進行役）

市長も一言お願いできますでしょうか。

市長）

色々ご意見をいただきました。協議会の意見，私に会長になってくれというのはちょっと検討させて頂きまして。こういう声をいただいたことをありがたいと思っております。市としても，もちろん心は一緒ですので，他の学校もそうなのですけど，募集に対しての生徒が減少している訳ですから。市も協議会と多くの方々と一緒になって，活動を一緒にしていきたいと思います。支援ということについても，今も考えておりますけど，またなにかいい案がありましたら，それについての支援も協力をさせていただきます。一緒になって，学校の，頴娃高校の存続につながっていくことを，みんなと一緒

にやっていければと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

頴娃高校活性化協議会）

　数年前とすると，高等学校の捉え方というのも市長がわざわざこうやってしてくださるのは考えたことなかったくらいに発展をしていただいたなと喜んでおるところです。私たちはずーっと協議会をやってきましたけれども，本当微々たる結集でしかありませんでしたが，こうやってみんなが集まって取り組んでいいただくと必ず大きな結果がそのうちついてくるのではないかと思っています。今日は本当に忙しい中を来ていただいて，ありがとうございました。